



平成 21 年 7 月 31 日

各 位

上場会社名 株式会社小田原機器
代 表 者 代表取締役社長 津川 善夫
(コード番号：7314)
問合せ先責任者 取締役経理部長 峯岸 正博
T E L 0465-23-0121

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年3月16日に公表した業績予想を下記のとおり修正することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成21年12月期第2四半期累計期間連結業績予想数値の修正
(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,325	400	410	242	182円39銭
今回発表予想(B)	1,800	117	114	△19	△13円67銭
増減額(B-A)	△524	△283	△295	△261	—
増減率(%)	△22.6	△70.7	△72.1	—	—
(参考)前期実績 (平成20年12月期第 2四半期)	3,187	640	652	384	310円30銭

2. 平成21年12月期通期の連結業績予想数値の修正
(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,493	904	921	543	367円65銭
今回発表予想(B)	3,290	271	278	80	54円37銭
増減額(B-A)	△1,203	△633	△643	△463	—
増減率(%)	△26.8	△70.0	△69.8	△85.2	—
(参考)前期実績 (平成20年12月期)	6,108	1,041	1,061	623	503円01銭

3. 平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正

(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,325	366	384	226	170円98銭
今回発表予想(B)	1,799	150	157	32	23円12銭
増減額(B-A)	△526	△215	△227	△194	—
増減率(%)	△22.6	△58.9	△59.0	△85.6	—
(参考)前期実績 (平成20年12月期第 2四半期)	3,183	609	631	371	299円55銭

4. 平成21年12月期通期の個別業績予想数値の修正

(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,493	831	865	510	345円45銭
今回発表予想(B)	3,288	319	344	154	104円64銭
増減額(B-A)	△1,205	△511	△521	△356	—
増減率(%)	△26.8	△61.6	△60.2	△69.7	—
(参考)前期実績 (平成20年12月期)	6,102	1,008	1,048	612	494円50銭

5. 当初予算策定の経緯

当初の予算策定時である平成20年12月期時点において、平成21年12月期は、当社グループの関連市場である路線バス業界では、平成21年3月度までに首都圏における設備需要がほぼ一巡し、今後は地方において非接触ICカードシステムの普及が本格化することが予想されており、合理化推進のための設備投資意欲は、引き続き底堅く推移すると想定しておりました。また、世界的な経済情勢の悪化に伴って、企業収益の悪化並びに設備投資の大幅な減少等が起こっている中ではありましたが、公営の路線バス事業者は予算を基に設備投資計画が立てられており、過去の経験則からも公共性の高い交通機関であるバス業界の設備投資への影響については限定的であると分析したうえで予算策定いたしました。

6. 修正の理由

(1) 連結業績

①首都圏におけるバス関連設備事業の状況

非接触 I C カードシステムの導入に伴う代替需要の取り込みを喫緊の課題として積極的な営業活動を展開し、首都圏における非接触 I C カードシステムの導入に伴う設備需要については概ね当初の計画通りに推移しております。

②地方におけるバス関連設備事業の状況

地方の設備需要については、入札案件において同業他社との競合激化があり、第 2 四半期において 346 百万円の失注が発生いたしました。また、突発的な客先都合による設備投資の先送り (123 百万円) も見られました。

これらに加え、第 3 四半期・第 4 四半期においては、客先の補助金の見送りによる設備投資計画の延期・縮小が、例年に無く多数の案件 (約 390 百万円) において発生する見通しとなり、通期では 857 百万円が当初売上予算から下方に推移する見込みとなりました。

③バス関連部品・修理事業の状況

バス関連部品・修理については、非接触 I C カードシステムの導入に伴い、付随する部品が堅調に推移したこと等により、概ね当初の計画通りに推移しております。

④その他事業の状況

バス事業者以外のユーザーに向けた部品の販売、並びに新規事業開拓に伴う新製品の販売については、経済情勢の悪化に起因する設備投資の急激な落ち込みの影響を受け、約 290 百万円が当初売上予算から下方に推移する見込みとなりました。

⑤その他の要因

a) 役員の退任に伴って役員退職慰労引当金を積み増したことにより、販売費及び一般管理費が増加し、営業利益以降の各段階利益が減少いたしました。

b) 当社グループは税効果会計に係る会計基準に則り、繰延税金資産を計上しておりますが、当期の業績予想を考慮し、繰延税金資産の回収可能性について検討いたしました結果、当社及び連結子会社である株式会社オーバルテックにおいて、十分な課税所得が見込めないことが予想されるため、第 2 四半期において当社で繰延税金資産 48 百万円、株式会社オーバルテックで繰延税金資産 8 百万円の取り崩しを行うことといたしました。その結果、連結として第 2 四半期累計期間の法人税等調整額に 56 百万円計上する予定となっております。

(2) 個別業績

個別業績の修正の理由につきましては、連結と同様の理由によりますので、上記の通りまとめて記載いたしました。

【補足資料】

前回発表売上予想と今回発表売上予想の差異分析

(1) 第2四半期累計期間連結売上高 (単位：百万円・%)

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額(B-A)	増減率(%)
①首都圏におけるバス関連設備事業	824	915	91	11.1
②地方におけるバス関連設備事業	860	432	△427	△49.7
③バス関連部品・修理事業	423	445	22	5.4
④その他事業	218	6	△211	△97.2
合 計	2,325	1,800	△524	△22.6

(2) 通期連結売上高 (単位：百万円・%)

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額(B-A)	増減率(%)
①首都圏におけるバス関連設備事業	1,160	1,150	△9	△0.8
②地方におけるバス関連設備事業	2,214	1,356	△857	△38.7
③バス関連部品・修理事業	808	761	△46	△5.8
④その他事業	311	21	△290	△93.2
合 計	4,493	3,290	△1,203	△26.8

- 【注】1. 当社は、平成20年7月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。業績予想数値について、平成20年12月期第2四半期の1株当たり中間純利益では、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を表記しております。
2. 本資料記載の業績予想につきましては、現段階の入手可能な情報に基づいて判断しておりますが、実際の業績は様々な要因により上記の予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上